

2010年6月18日

札幌市長  
上田 文雄 様

(社) 北海道自然保護協会  
会長 佐藤 謙

**藻岩山頂展望台に関する札幌市からの回答書（札幌企第102号）に関して  
訂正と説明を求める要望・質問書**

当協会が2010年4月14日付けで要望しました「藻岩山頂展望台の『修正案』の再見直しを求める緊急要望書（第2回）」に対して、札幌市長から6月3日付けの回答書（札幌企第102号）をいただきました。

しかし、この回答書には、客観的な事実経過に基づいて貴職が訂正すべき重大な表現の誤りが認められます。また、この回答書は、客観的な事実経過を歪曲しているため、当協会が要望書等において的外れな指摘をした形となり、当協会の名誉にも関わる重大な内容を書いております。この回答書はさらに、狡猾とも思われる論理性の矛盾や意味不明の表現が多く、市民に対する説明として真摯で十分な回答とは言えませんので、改めて札幌市の説明責任を果たすべきです。

したがって、第一に、私たちの疑問点・要望点に対して、論理の一貫性を持って説明責任を果たされるよう、真摯かつ十分にご回答ください。第二に、客観的な事実経過に基づいて回答書の一部を訂正するとともに、なぜ事実経過を無視して回答したのか、その理由と責任を明らかにすることを強く求めます。第三に、今回の回答書では札幌市民に周知されていない内容、すなわち「眺望ロビーを設置」および「レストランの一部を眺望スペースとして活用」が初めて明らかにされていながら、それらの具体的な内容はまったく不明ですので、ここに十分な説明を求めます。

記

1. 「『藻岩山の魅力を失わせないことが基本である』との視点について、改めて、真摯な回答を求めます」に対する回答書には、意味不明な文章が多く認められますので、さらに改めて、真摯な回答を強く求めます

私たちの要望書に対する今回の回答書は、「今回の施設再整備は貴重な自然やアイヌ文化、さらに自然景観をそれぞれ保護する視点に立ち、藻岩山の魅力アップを図ろうとするものであります」と明記されております。しかし、シンポジウムや昨年来の私たちの要望書において、藻岩山頂における施設再整備と上記に明記された視点に立った魅力アップが本当に関係するかについて、多くの市民から種々の疑問が提出されてきました。したがって、改めて説明責任を果たすよう、具体的には、以下の項目について真摯で十分な説明を求めます。

(1) 回答書における疑問1

回答書では「貴重な自然の観点では、天然記念物にも指定されている藻岩山の貴重な自然を保全していくことを最大のテーマとしており、この自然をしっかりと守りつつ、その恵まれた自然環境を多くの市民、観光客が実際に感じ、触れることによって、自然環境を

保全していくことの必要性、重要性を感じていただくことを基本に考えております。こうした豊かな自然を保護することと利用することの調和の中で必要最小限の施設再整備を行うものです。」と述べております。

この回答書における論理の流れは、「自然保護の視点に立って藻岩山の魅力アップを果たすこと、自然保護については自然を実際に感じ触れることによって達成できること、そのためには山頂まで人々を運び、展望台と称しながらレストランでの食事を楽しませるなどのため箱物を作ること」になります。しかし、この回答において明瞭な点はレストランなどを入れた箱物を作ることでありますが、そこに至る論理構成では、自然保護の視点に立ったと言いながらどの内容が自然保護と関係するのかまったく意味不明であり、自然保護に関わる具体性が欠けております。したがって、この回答は、全体に一貫した論理性が欠如しており、文化都市札幌市が公表した文章としては真に恥ずかしい誤魔化しの文章とみなすことができます。以上の内容について、まったく座視できませんので、改めて十分な説明を求めます。

札幌市の発想には、「箱物を作れば観光客が来る」という考えがあると考えます。しかし、真の観光や真の文化を育てるには、箱物ではなく市民の連携や市民と観光客との共感が根底に必要であること、そしてそれがない場合には観光も文化振興も成功しない事例が余りにも多く認められることを銘記すべきです。したがって、貴重な自然や自然景観を保護する視点からの藻岩山の魅力アップについては、藻岩山の貴重な自然について、その内容を市民に知らせるガイドブックの作成、質の高い専門家ガイドの養成、貴重な自然を誇る認証制度など、箱物以外のソフト面について市民を巻き込んで種々検討することが先決事項です。自然を守り壊さず利用する具体的方法について、回答書ではまったく説明されておられません。そのため、「実際に感じ、触れることによって、自然環境を保全していくことの必要性、重要性を感じていただくことを基本」とする回答は、絵に描いた餅のように、具体性と論理性を欠いております。さらには、ロープウェイから山頂に至る自然破壊のモノレールをやめ、従来の方法にボランティアの力も借りることによって高齢者や障がい者が山頂に行くことができるならば、その宣伝効果も含めて、暖かい町札幌のイメージアップが可能になるとも考えられます。札幌市の考えには、以上のような箱物を越えた視点からの具体策の提案がほとんど見あたりません。

## (2) 回答書における疑問2

回答書では「アイヌ文化の視点では、山頂に伝統儀式を行う場を常設する計画であり…」としています。しかし、札幌市は場を作ればアイヌ文化を世に伝えることができると考えているのでしょうか。回答書では、藻岩山の利用において貴重な自然の保護とともにアイヌ文化の伝承という二つの視点が重視されていますので、それらの具体策を明示することが必要です。そのような明示がないままの状況では、アイヌ文化の伝承を果たす心意気や位置づけが札幌市にあるのか、極めて不明確になります。アイヌ文化を最大限とりあげ、アイヌの人々の創意工夫を発揮してもらおう仕組みが藻岩山においても明確にされないと、アイヌモシリの首都札幌市がアイヌ文化を大切にしているというメッセージが内外の訪問者に伝わり、観光についても大きく貢献すると考えます。

## (3) 回答書における疑問3

今回の回答書では「設置する施設については規模を小さくし」と述べていますが、これはまったくの偽りです。また、「周囲に樹木を配置すること」や「バリアフリー対応等を施した施設とする」の詳細計画については、先に述べたソフトを含む全体構想がまとまって

から検討する内容と考えます。私たちは、札幌市の全体構想が箱物行政であるため、将来税金の無駄遣いと言われる危険性についても指摘し、計画の再検討を要望しました。これに対して検討されなかったことは極めて遺憾なことです。

2. 『『21世紀の環境文化都市・札幌のシンボル』をめざす上田市長のご英断を、改めて求めます』に対する回答書には、以下の点で、大きな矛盾・論理性の欠如が認められますので、十分な説明を求めます

(1) 回答書における疑問4

「この修正案については、シンポジウムを開催し市民の皆様からのご意見を伺ったところであり、ここでは新たな論点が出てくることはなく、議会においても了解が得られております」という回答があります。しかし、この文章は、何を根拠に、どのような意味でおっしゃったのでしょうか。実際、シンポジウムにおける意見は大多数が「修正案の見直し・再検討」を求めておりましたので、今回の回答は、「見直しを求める意見は当時まで出されており、シンポジウムの新たな論点でなかったのでまったく考慮すべきでなく、見直し・再検討は行わなかった」という意味になると判断します。このように理解して宜しいのでしょうか？ また、「眺望の一等地がレストランによって占拠され、一般観光客が排除されている」という具体的な問題指摘は、シンポジウム後の2月25日付けの緊急要望書において、当協会が新たな論点として明示しております。それにもかかわらず、回答書ではそのことが何故かまったく触れられておりません。以上のことから、上記の回答内容は、極めて不遜であると考えますので、改めて、真摯な回答を求めます。

(2) 回答書の疑問5

回答書では、「今後は、作った施設をいかに活用していくか、どのような事業をこの施設を使って展開していくかについて、多くの市民、NPO等の市民団体。関係機関の皆様のご協力をいただきつつ検討してまいります。多くのノウハウをお持ちの貴協会の皆様にもご協力をいただけると幸いです」とあります。この回答の論理は、施設を作るにあたって市民の声を無視し市民の協力を拒否したことを忘れ、施設を作ってから活用の仕方について検討するから協力を願うという流れになっております。まず、この回答は、悪い表現をしますと「まるで人を喰った論理」であり、文章作成者の知性と教養が疑われるものです。また、この回答は、「市民の創意を大切にするとおっしゃっている札幌市長の政治姿勢とまったく異なっています。したがって、上田市長におかれては、NPOなどに対する説明会を早急に開催し、「見直し・再検討」を求めた市民の要望を無視した理由について、その上で今後市民団体の協力を依頼することについて、説明責任を果たすよう求めます。

3. 展望台施設に関する回答について、表現の訂正を求め、新たに示された内容に関して十分な説明を求めます

(1) 要望理由としての客観的な事実経過

本年2010年2月25日、当協会は「藻岩山頂展望台の『修正案』の再見直しを求める緊急要望書」において、「札幌市が示した修正案のレストランは、市街地側が眺望できる展望の一等地を占めています。一般観光客が排除されており、せっかく高いロープウェイ料金を支払って山頂まで来たのに、ゆっくりと眺望する目的を達することができない不満が残ります」との問題点を指摘しました。

指摘根拠として使用した資料は、本年2月4日に札幌市観光コンベンション部の荒井功

部長ほか担当者が当協会事務所に来所された際にいただいた「山頂展望台施設ボリューム検討案比較表」に示された「修正案展望台」の平面図です。その平面図によれば、眺望の一等地である一階北側の壁面は北東側レストラン（赤色）および北西側札幌紹介施設（紫色）によってすべて占められ、「眺望ロビー」はどこにも存在していません。その際に、荒井部長ほか担当者は、2月13日開催予定の「藻岩山施設再整備シンポジウム」について当協会の出席を依頼し、再整備に関する内容説明が行われましたが、そこでも「眺望ロビー」の姿はいっさい認められませんでした。

本年3月17日、札幌市長からの回答（札幌企第1327号）がされましたが、それには「今回の『修正案』は最終案として、今後事業を進めてまいりたい」とあります。すなわち、札幌市は「眺望ロビー」が存在しない「修正案」で事業を実施すると宣言したのです。

そのため、当協会は、4月14日の緊急要望書（第2回）を札幌市長に提出し、「山頂展望台からの展望機能は、レストランの存在によって阻害される設計となっているが、なぜ、それが合理的で適正であるといえるのか」の説明を求めました。

以上の事実経過によりますと、今回の札幌市長からの6月3日付け回答書は、「眺望ロビー」が存在しない事実を前提に作成された質問書に対する回答であるべきです。ところが、実態は以下の通りです。

## （2）上記の事実経過に即して、回答書を訂正することを求めます

今回の回答書は、「眺望ロビー」が存在しないと合理的で適正な設計であると説明できないからでしょうか、あたかも「眺望ロビー」がこれまでの「修正案」に織り込み済みであるかのように事実経過が歪曲されています。これは、札幌市にとって都合の良い作文として体裁を取り繕ったとしか言いようがない内容となっています。したがって、回答書で言う「眺望ロビーを設置」および「レストランの一部を眺望スペースとしても活用」に関する部分は、客観的な事実経過に基づき、以下のように訂正することを強く求めます。

### 札幌市の回答原文（下線部分に訂正すべき問題点がある）

「これまではレストランに入る以外は屋内からの眺望を楽しむことができなかったものを、新たな展望台には眺望ロビーを設置し、寒暖、風等の影響に左右されることなく屋内からの眺望を楽しむことができます。・・・気象状況によっては屋内からの展望を希望される方が多くなることも想定されるため、レストランの一部を眺望スペースとしても活用できる設計としているほか・・・、多くの皆様に屋内からも眺望を楽しんでいただくことは十分に可能であると考えております。」

### 当協会が求める訂正文（下線部分のように加筆・訂正すべきである）

「これまではレストランに入る以外は屋内からの眺望を楽しむことができなかったものを、新たな展望台には貴協会からのご指摘を踏まえて眺望ロビーを設置する設計変更を行い、寒暖、風等の影響に左右されることなく屋内からの眺望を楽しむことができるようにいたします。・・・気象状況によっては屋内からの展望を希望される方が多くなることも想定されるため、レストランの一部を眺望スペースとしても活用できる運用とするほか・・・、多くの皆様に屋内からも眺望を楽しんでいただくことは十分に可能であると考えております。」

## （3）事実経過を無視して回答した理由と責任を明らかにすることを求めます

回答書では、前段に当協会の指摘事項を掲げ、後段でそれを受けた回答を記していますが、札幌市の「修正案」には「眺望ロビー」が存在しないにもかかわらず、回答は事実経過を歪曲して「眺望ロビーを設置し」と、あたかも「修正案」に「眺望ロビー」が存在し

ていたかのような作文をしております。そのため、この回答書を第三者が読むならば、逆に当協会が札幌市の設計内容を十分検証しない誤った理解により「山頂展望台からの展望機能は、レストランの存在によって阻害される計画・設計となっている」と的外れな指摘をしたことになり、今回の回答書によって、まったく心外なことに当協会が無責任だと思われかねない、不名誉な事態が想定されます。

したがって、回答書で言う「眺望ロビーを設置」および「レストランの一部を眺望スペースとしても活用」に関する部分は、なぜ客観的事実経過を無視し、札幌市に都合の良い作文としたのか、その理由を説明するとともに、事実を無視した責任をどう取るのか明らかにすることを強く求めます。

#### (4) 眺望ロビー等の具体的内容がまったく不明確なので、説明を求めます

①「眺望ロビーを設置」することと、②「レストランの一部を眺望スペースとしても活用」することは、今回の回答書で初めて明らかにされたにもかかわらず、具体的な内容がまったく不明ですので、十分な説明をすべきです。

①眺望ロビーの具体的な位置・規模・構造についてまったく言及されていませんので、私たちと市民に対して十分に説明することが必要です。また、②「レストランの一部を眺望スペースとしても活用」あるいは「札幌紹介施設の開放」については、ソフトの運用面で対応可能と思われませんが、回答書では「眺望スペースとしても活用できる設計」とハードの設計変更とも読める表現になっています。したがって、具体的にどこをどのように変更するのか、また運用面では、どのような場合にどのような運用をして一般観光客の求めに応ずるのか、さらにレストランの一部や札幌紹介施設が眺望スペースとして開放されることを一般観光客に対して、どのように周知徹底させるのか、私たちならびに市民に対して具体的な内容を説明することが必ず必要です。

#### 4. 総括的な要望

今回の回答書は、かつて無駄な事業を推進する立場の者が国民の理解を得ずに誤魔化そうとした歴史を思い出させるものであり、「21世紀の環境文化都市・札幌のシンボル」をめざす上田市長による回答書とは決して思えないものです。今回の回答書を読み、狡猾とも思われる論理の矛盾や意味不明な文章が多いので、それぞれ問題点を指摘してきましたが、最低限、以上に述べた問題点・要望点に関して、真摯な回答を求める次第です。

この藻岩山再整備計画が市民の合意形成に関してまったく不備のまま進められてきましたので、上田市長の責任は極めて重いと考えます。藻岩山の貴重な自然や素晴らしい自然景観に対して悪影響が危惧されますので、市民の合意形成が重要でした。そこを無視された上田市長におかれては、どのような影響であっても悪影響を及ぼした際には、私たちは札幌市長に対して問題に関する対応を何処までも追及する所存です。

藻岩山の施設整備について、事業者となる札幌市は、市民に対して十分説明する責任があります。ところが、札幌市は、市民の疑問に対しては十分な回答をしないまま賛成意見だけを採り上げて事業を進行させようとし、事業者の意図に反する意見は無視している現状にあります。これは、極めて大きな問題と考えます。したがって、私たちの総括的な要望として、この施設整備問題を市民に広く深く説明する機会を設けることを強く求めます。

さらに、今回の回答内容を考え続けると、前回の質問書において最後に示したまとめをここに改めて繰り返すべきと思っております。以下に、前回の総括的な要望をほぼ全文付記いたします。

私たちは、この藻岩山問題を一つの重要な環境政策課題として、上田市長に「今一度立ち止まって再検討されること」「市長としての説明責任を果たされること」を強く要望しました。それに対して、貴職の回答は、「藻岩山の自然に負荷をかけない」旨が記されておりますが、その根拠や内容がまったく示されておられません。他方で、「札幌市の経済や観光振興の観点からこれ以上の事業の停滞は好ましくない」という理由を挙げ、「今一度立ち止まって再検討されること」を拒否されました。

私たちは、現在までの環境問題は、多くが自然や環境がどうあるべきか十分に検討しないまま目先の経済や観光振興を先行させたことに原因があると考えております。貴職の回答は、まさに旧態依然とした上記の観点に基づいていることが明白であり、最も危惧されるのは、山頂展望台施設が藻岩山の自然景観を犠牲にしなが、経済や観光利用の観点からも効果が生じない本末転倒の事態です。

言うまでもなく、藻岩山は、札幌市民ならびに国民の宝です。そうした藻岩山において、十分な市民合意なくレストラン重視の山頂展望台を建設することは、将来に重大な禍根を残すおそれがあります。私たちは、上田市長が今強行することが将来の札幌市の経済や観光振興に悪影響を与えることを危惧しています。市民合意を得ることが将来に禍根を残さない唯一の方法です。上田市長による総合的なご判断が必要であり、ここに改めてご英断を求める次第です。